

本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。この機会に私共の活動について、紹介させていただきます。私共の会は、「北総線の運賃値下げを実現する会」といい、略称を「北実会」と申します。目的は名称の通り、全国一高いといわれる北総線の運賃値下げを実現させるために、1999年10月、白井市民を中心に結成されました。歴代会長は白井市民の吉田治男氏、次いで元本埜村議・後印西市議の山下兼男氏、印西市民の太田誠氏で、事務局長は後に白井市長になった横山久雅子氏、次いで白井市民の間嶋博氏が担当してきましたが、現在は5人の共同代表制をとっています。役員の氏名は別紙をご覧ください。その中で今日の出席者をご紹介します。現在の会費納入会員数は、白井、印西市民等を中心に約60名で、他に有識者として細川幸一・前日本女子大教授、大塚良治・江戸川大学教授の協力を得ています。

北実会の初期の活動は、沿線市民が熱望している「運賃値下げ」の声を目に見える形に、一つにまとめることでした。結成直後から「運賃値下げの署名運動」を始めて、1999年12月には6万5千筆を集め、関係各所に陳情しました。この結果、印西、白井、本埜、印旛の2市2村による通学定期代助成制度につながりました。2010年の成田新高速鉄道開通を前にして、運動は大きく高揚しました。京成電鉄の北総線への参入が、運賃値下げへの期待をふくらませました。北実会は第2次の署名運動にとり組み、10万7千筆余の署名を集めて、2008年8月、国交大臣に面会して要請しました。2010年1月には、北総線に参入する京成電鉄の運賃申請を審議する国交省の運輸審議会の公聴会が開かれましたが、ここでは公述人28名中、北実会のメンバー16名が印西市長、白井市長と共に北総線運賃の問題点を指摘して是正を求めました。

成田新高速鉄道・成田スカイライン開通後の、北実会の活動は、北総線をめぐる基本問題の解明と、その時々にかかる諸問題の解明、その市民への広報活動です。「北総線問題・はてなシリーズ」と題して発行したチラシだけでも38号を数え、1回平均1万枚としても38万枚以上を配布しています。

この間、運賃問題で争われた2回の訴訟に際しては、その原告団体と連携しました。北総線の運賃をどうしたら下げられるかの方策について、北実会は2021年11月、これまで主張してきたことをまとめ、40%値下げが可能とのシミュレーションをつけて、「北総線運賃は京成本線並みの運賃に」と題した見解を公表しました。その柱は、①北総鉄道の儲けすぎの是正、②北総鉄道区間の京成の線路使用料の適正化、③千葉ニュータウン鉄道への線路使用料の是正です。詳しくはお手元の資料をご覧ください。北実会は、こうした考えに基づき、不合理な仕組みの是正を求めて、国交省、千葉県、沿線6市に対して、折りに触れ働きつづけてきました。

特に北総鉄道の株主である千葉県と沿線6市の首長に対しては、株主の立場で北総鉄道に改善を求めるように要請し続けてきました。この要請にもっとも良く応えてくださったのが板倉前市長でした。その一例は2018年の北総鉄道株主総会で、北総鉄道の問題点を全般にわたって、厳しい質問をされたことで、その内容は「広報いんぎい」の2018年8月1日発行、NO. 860号に1ページ全面で報告されておりますのでご覧ください。

この時、取締役選任の提案が出されましたが、板倉前市長は、「役員は運賃値下げの改善案を考えていない」として、異例の反対態度を表明しました。この提案の対象者であった、後に社長となる室谷正裕（むろや・まさひろ：現会長）氏は後日、「沿線あつての鉄道会社なのに、頑なな会社の姿勢ではだめだ、と痛感し、板倉市長と直接お話しして理解しあえた。沿線自治体の皆様と鉄道会社との本来の関係に戻れたのは板倉市長様のお陰と心から感謝しております」と語っています。そして3年後の2021年6月には「値下げの検討に着手」と発表し、2022年10月から画期的な通学定期代京成並み値下げを中心に15.4%の値下げが行われました。私共の「40%値下げシミュレーション」で言えば、①の「自社努力」は果たされ、③の「千葉ニュータウン鉄道への線路使用料」は多少改善されたようですが、まだ京成とはダブルスタンダードであり、線路使用料問題は、依然、大きな課題です。

北総鉄道の室谷会長は、値下げの際のマスコミのインタビューや北実会との話し合いに答えて、「更なる値下げの必要性は認識している。沿線自治体と連携を図り、地域活性化を図る中で、次のステップが見えてくるだろう」とおっしゃっています。私共も、必要に応じて北総鉄道経営陣と懇談して相互理解を図っています。

藤代市長様におかれましては、これまでの経緯に立って、引き続き北総線の運賃値下げにご尽力くださるようお願いいたします。

以上、北実会の活動の紹介と要請を申し上げました。